

29 子どもの学習環境整備関連事業【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		福祉サービスの質の維持・向上に努めるとともに、生活 困窮者に対する生活支援を強化します				
事業概要	内容	複合的な課題を抱える生活困窮者からの相談に応じ、一人ひとりの支援計画 (プラン)を作成し、関連機関と連携しながら、必要な情報提供、就労支援、 家計相談支援及び子どもの学習支援等を実施します。学習塾の受講費用、高 校・大学の受験費用を貸し付ける「東京都受験生チャレンジ支援貸付事業」の 申請手続き支援を行うほか、大学等受験料の助成について、都の限度額を超え る費用に対し、区が定める限度額の範囲内で助成します。 また、生活保護世帯の自立への努力を支援するため、就労支援、地域移行支 援を行うほか、対象世帯の子どもに対し、学習環境の整備支援に要する経費の 一部を助成します。平成30年度は、受験期の子どもへの助成を充実させ受験生 チャレンジとの均衡を図るとともに、これまで中学生のみだった学習塾・講習 会等の費用助成の対象を小学4年生から高校3年生までに拡大します。				
	事業開始 年度	(1) 平成27年度 (2) 平成27年度 (3) 平成17年度				
事業費・ コスト	予算現額		決算額	執行率		
	(1) 生活困窮者自立支援 (自立相談支 援)		3,161,000円	2,067,448円	65.4%	
	(2) 受験生チャレンジ支援		820,000円	234,482円	28.6%	
	(3) 自立促進事業		4,496,000円	1,394,957円	31.0%	
	コスト単位	(1) 相談1件あたり		(255件)		
		(2) 利用1件あたり		(22件)		
		(3) 利用1件あたり		(23件)		
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)		
(1)	8,108円 [55.9%]	6,390円 [44.1%]	14,498円	[100.0%]		
(2)	10,658円 [8.8%]	111,106円 [91.2%]	121,764円	[100.0%]		
(3)	60,650円 [46.1%]	70,850円 [53.9%]	131,500円	[100.0%]		
事業実績	○平成30年度実績					
	<p>(1) 生活困窮者自立支援 (自立相談支援) 新規相談受付 255件 (受付後の対応内容) プラン作成件数 92件/ 就労支援 75人/ 家計相談支援 11人 子どもの学習支援 7人/ 就労準備支援 0人</p> <p>(2) 受験生チャレンジ支援 22件 申請支援 19件 中学3年生 塾受講料 7件 受験料 7件 高校3年生 塾受講料 2件 受験料 3件 受験生チャレンジ支援助成 (区独自) 3件</p> <p>(3) 自立促進事業 23件 就労支援 (被服等) 6件 地域移行支援 (住宅契約のための鍵交換費等) 13件 次世代育成支援 4件 (学習塾代 2件・大学受験料 2件) 小4から高3までの保護世帯の児童・生徒11人のうち2人、延べ4件助成</p>					
2年度事業実績を踏まえた 課題及び現況への対応	支援対象世帯数に対して利用実績が少なく潜在的な需要の掘り起こしが課題です。 令和元年度は、「子どもの学習支援」を重点に、新たに選定した事業者が区内3会場で20名を超える参加者を対象に各参加者の希望に合わせた学習・生活支援を行います。 令和2年度も、必要とする世帯に必要な支援が行き届くよう、学習・生活支援の内容を更に検討し、貧困の連鎖の防止をめざしていきます。また、生活保護世帯に対しては、自立への努力と次世代育成を支援するため、学習環境整備支援・大学進学等支援を引き続き実施していきます。					
所管課 保健福祉部 生活支援課		決算参考書 156、158、172頁		H30予算の概要	112頁	

30 バリアフリーマップの作成【拡充】


ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		障害があっても暮らしやすい地域をめざします																	
事業概要	内容	高齢者や障害者をはじめ、すべての人々が安全、安心、快適に暮らし、自由な移動や社会活動に参加できる「福祉のまちづくり」が求められています。 区は、障害者などに、区内の道路、公園、駅、公共施設、民間建物などのバリアフリー情報を提供するため、誰もが利用しやすいバリアフリーマップを作成しています。 平成30年度は、バリアフリー社会に対する理解促進に向けた職員研修を実施するなど、バリアフリーマップの持つ可能性を最大限に活かした取組みを展開するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催を見据えた外国語版マップの作成を進めます。																	
	事業開始年度	平成25年度																	
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率														
	4,258,000円		3,568,400円		83.8%														
	コスト単位	バリアフリーマップ作成1部あたり (10,000部)																	
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)															
	357円 [63.6%]	204円 [36.4%]	561円	[100.0%]															
事業実績	○平成30年度実績 (1) バリアフリーマップ作成実績																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作成対象エリア</th> <th>日本語版</th> <th>英語版</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秋葉原～神田～岩本町</td> <td>2,000部</td> <td>2,000部</td> </tr> <tr> <td>御茶ノ水～九段下～北の丸公園</td> <td>2,000部</td> <td>2,000部</td> </tr> <tr> <td>飯田橋～市ヶ谷～麴町</td> <td>2,000部</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,000部</td> <td>4,000部</td> </tr> </tbody> </table>		作成対象エリア	日本語版	英語版	秋葉原～神田～岩本町	2,000部	2,000部	御茶ノ水～九段下～北の丸公園	2,000部	2,000部	飯田橋～市ヶ谷～麴町	2,000部	—	合計	6,000部	4,000部		
作成対象エリア	日本語版	英語版																	
秋葉原～神田～岩本町	2,000部	2,000部																	
御茶ノ水～九段下～北の丸公園	2,000部	2,000部																	
飯田橋～市ヶ谷～麴町	2,000部	—																	
合計	6,000部	4,000部																	
	(2) 職員研修 (10月16日実施 参加人数 39名) 採用2年目の職員を対象に、視覚障害者5人制サッカー日本代表選手を招き、障害者から見た日常生活におけるバリアフリーの現状と課題について講義を行うとともに車椅子体験を行いながら、区内の歩道の道幅や段差などの現状を把握するための「まち歩き調査」を実施しました。																		
2年度事業実績を踏まえた 課題及び現況への対応	平成30年度に作成したバリアフリーマップは、現在、区役所、出張所、観光協会に配布していますが、より多くの人々が活用できるよう車椅子の利用者がいる福祉施設やベビーカーの利用者が多い保育施設などにも備え置く必要があります。 令和元年度は、日本語改定版として「大手町～丸の内」、「永田町～霞が関」エリアのバリアフリーマップを、英語改定版として「飯田橋～市ヶ谷」、「永田町～霞が関」エリアのバリアフリーマップを作成し、障害者施設をはじめ、幼稚園、こども園、保育園にも配布します。 令和2年度は、3エリアの日本語改定版と3エリアの英語改定版を作成するとともに、英語以外の外国語版を作成することや、スマートフォンなどでも手軽に情報を入手できるように地図情報のオープンデータ化の可能性を検証するなど、さらなる利便性の向上について検討を重ねていきます。																		
所管課 保健福祉部 福祉総務課		決算参考書	158頁	H30予算の概要	107頁														

31 自動通話録音機の設置促進【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括ケアシステムを構築・推進します
------------------------	--

事業概要	内容	<p>特殊詐欺被害が全国的に拡大しており、区内でも数千万円単位の被害が発生しています。その対策として、区は、65歳以上の高齢者が居住する世帯を対象に、特殊詐欺の発生に予防効果を発揮する自動通話録音機を無料で設置し、高齢者の安全と安心の確保に努めます。</p> <p>※自動通話録音機…電話着信時の呼出音が鳴る前に、発信者に対する警告音声を流し、通話内容を録音します。特殊詐欺犯は声を録音されることを嫌うため、被害の防止に効果的です。</p>		
	事業開始年度	平成30年度		

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率		
	16,100,000円		11,709,684円		72.7%		
	コスト単位	設置1世帯あたり (407世帯)					
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)	
28,771円		[93.5%]	2,002円	[6.5%]	30,773円	[100.0%]	

事業実績	<p>○平成30年度実績 事業開始：平成30年6月 申請数：657世帯（麴町地区：263世帯、神田地区：394世帯） 設置数：407世帯（麴町地区：169世帯、神田地区：238世帯）</p> <p>自動通話録音機を設置することによる特殊詐欺被害防止の効果について、区内警察署と連携して周知し、設置促進を図りました。</p>	 <p>▲自動通話録音機</p>
	<p>事業の周知を通じて「私は詐欺にはだまされない」「自分に限っては大丈夫」という反応に接することもあり、高齢者の意識変容が課題となっています。</p> <p>令和元年度も引き続き、千代田区内の警察署や関係機関と連携しながら事業を推進します。</p> <p>特殊詐欺被害の報告が依然続いていることから、令和2年度においても、区広報や掲示板を活用して周知するほか、区のさまざまな会議体を通じて特殊詐欺の危険性を周知し、特殊詐欺の撲滅に向けた取組みを進めます。</p>	

現況と令和2年度予算への対応	<p>事業の周知を通じて「私は詐欺にはだまされない」「自分に限っては大丈夫」という反応に接することもあり、高齢者の意識変容が課題となっています。</p> <p>令和元年度も引き続き、千代田区内の警察署や関係機関と連携しながら事業を推進します。</p> <p>特殊詐欺被害の報告が依然続いていることから、令和2年度においても、区広報や掲示板を活用して周知するほか、区のさまざまな会議体を通じて特殊詐欺の危険性を周知し、特殊詐欺の撲滅に向けた取組みを進めます。</p>
----------------	--

所管課 保健福祉部 在宅支援課	決算参考書	160頁	H30予算の概要	88頁
-----------------	-------	------	----------	-----

32 医療と介護の連携推進関連事業【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		安心して医療が受けられるしくみづくりと、医療と介護の連携の推進に努めます			
事業概要	内容	<p>(1) 在宅療養支援ネットワークの推進 医療と介護に携わる多職種が効果的に情報を共有し、在宅療養者を支える体制を構築するため、地区医師会が取り組むICTネットワークシステムを活用した「多職種ネットワーク構築事業」に対して補助を行います。</p> <p>(2) 在宅療養実態調査 在宅療養者に対し適切なチームケアを行う仕組みを整えるため、区内高齢者の在宅療養における医療と介護の現状と課題を調査・検証します。</p> <p>(3) 在宅医療・介護連携推進事業 医療・介護サービスを必要とする区民等が活用できるよう、「地域医療・介護サービス資源情報システム」の定期的な情報更新を行い情報の質を確保します。また、より多くの方に情報を提供するため、冊子版も作成します。</p> <p>(4) 医療ステイ利用支援 在宅療養の継続や家族の介護負担を軽減するため、区内協定病院に一時入院できる医療ステイを区独自に実施します。</p>			
	事業開始年度	(1) 平成30年度 (2) 平成30年度 (3) 平成20年度 (4) 平成15年度			
事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率	
	(1) 在宅療養支援ネットワークの推進	1,840,000円	961,000円	52.2%	
	(2) 在宅療養実態調査	4,953,000円	4,952,889円	100.0%	
	(3) 在宅医療・介護連携推進事業（介護保険特別会計）	6,652,000円	5,645,936円	84.9%	
	(4) 医療ステイ利用支援	5,168,000円	5,167,800円	100.0%	
	コスト単位	(1) 40歳以上の区民1人あたり		(32,465 人)	
		(2) 高齢者1人あたり		(11,031 人)	
		(3) 40歳以上の区民1人あたり		(32,465 人)	
		(4) 延べ利用者1日あたり		(325 日)	
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
(1)	30円 [37.5%]	50円 [62.5%]	80円	[100.0%]	
(2)	449円 [66.9%]	222円 [33.1%]	671円	[100.0%]	
(3)	174円 [55.8%]	138円 [44.2%]	312円	[100.0%]	
(4)	15,901円 [92.7%]	1,254円 [7.3%]	17,155円	[100.0%]	
事業実績	<p>○平成30年度実績</p> <p>(1) 在宅療養支援ネットワークの推進 千代田区医師会及び神田医師会に補助しました。 システム参加機関数：千代田区医師会（9か所）、神田医師会（6か所） 新規にシステムに参加する事業者が少なく、執行率が低くなりました。</p> <p>(2) 在宅療養実態調査：訪問看護を利用している65歳以上の方及び区内で訪問看護を提供する訪問看護ステーションに対して調査を実施し報告書を作成しました。</p> <p>(3) 在宅医療・介護連携推進事業：Webサイトの掲載情報を随時更新しました。また、冊子版を作成し、高齢者あんしんセンターなどの関係機関に配布しました。</p> <p>(4) 医療ステイ利用支援：利用件数49件 延べ325日</p>				
2年度事業実績を踏まえた 2年度予算及び現況への対応	<p>在宅での療養を支援するためには、実態把握及び多職種、関係機関と協働するためのルールや仕組みづくりが課題です。</p> <p>令和元年度は、在宅療養支援診療所、訪問診療を実施している医療機関へのヒアリング調査及び居宅介護支援事業所へのアンケート調査を行い、現状と課題を分析します。</p> <p>令和2年度は、平成30年度及び令和元年度の調査結果を基に、在宅療養高齢者にとって効果的な医療と介護の連携方法を検討していきます。</p>				
所管課 保健福祉部 在宅支援課	決算参考書 160、164、354頁	H30予算の概要	85頁		

33 相談体制の充実関連事業

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括 ケアシステムを構築・推進します				
事業概要	内容	高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）を麴町・神田地区に各1 か所、高齢者総合サポートセンター内に相談センターを設置し、高齢者の生活 や介護などさまざまな内容の相談に対して、適時、問題解決に向けた支援を 行っています。相談センターは、24時間365日有人体制で相談を受け付けてい るほか、医療・介護の連携支援や各種サービスのコーディネートを行っていま す。また、それぞれのセンターで関係機関と連携し、認知症支援や介護・福祉 の人材育成などにも積極的に取り組み、高齢者及びその家族が住み慣れた地域 で安全に安心して暮らせるよう地域包括ケア体制の構築を進めています。				
	事業開始 年度	平成18年度				
事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率		
	(1) 高齢者総合サポートセンター管理 運営（総合相談）		133,000,000円	131,992,000円	99.2%	
	(2) よろず総合相談		34,637,000円	33,122,347円	95.6%	
	(3) 包括的支援事業（介護保険特別会 計）		42,700,000円	42,700,000円	100.0%	
	コスト単位	(1) 相談1件あたり		(9,364 件)		
		(2) 相談1件あたり		(23,646 件)		
		(3) 相談1件あたり		(12,269 件)		
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)		
	(1)	14,096円 [96.7%]	479円 [3.3%]	14,575円	[100.0%]	
	(2)	1,401円 [75.1%]	465円 [24.9%]	1,866円	[100.0%]	
(3)	3,480円 [94.6%]	199円 [5.4%]	3,679円	[100.0%]		
事業実績	○平成30年度実績 家族全体の問題解決に関わるケースが増え、一つひとつの案件に要する時間も長く なっており、区とセンター間で連携を取り対応しました。					
	相談件数 総合相談 区 1,809件 相談センター麴町地区 3,288件、相談センター神田地区 5,209件 地域よろずケア 区 19件 高齢者あんしんセンター麴町 402件 高齢者あんしんセンター神田 397件 高齢者総合サポートセンター 305件 包括的支援事業 高齢者あんしんセンター麴町 6,168件 高齢者あんしんセンター神田 6,101件					
2年度事業 課題及び 実績を踏 まえた 令和対応	ひとり暮らしや認知症高齢者が増加し、頻回な関わりが必要なケースや長期的な支援 が必要なケースが増えていることから、相談支援体制の強化が課題です。 このため令和元年度は、高齢者あんしんセンター神田において「高齢者見守り相談窓 口」をモデル事業として開始しました。高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯だけ なく、サービスを利用していない高齢者がいる世帯なども対象に加え、看護師等の相談 員が戸別訪問し、生活上のリスクの早期発見と早期対応に取り組みます。 令和2年度も引き続き、高齢者がいる世帯の生活上の悩みごとや心配ごとにくみ細か く親身に対応し、住み慣れた地域で安心して在宅生活を送れるよう支援していきます。					
	所管課 保健福祉部 在宅支援課		決算参考書 162、164、354頁	H30予算の概要	89頁	

34 高齢者総合サポートセンター管理運営（指定管理料）【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括 ケアシステムを構築・推進します					
事業概要	内容	高齢者総合サポートセンター（かがやきプラザ）の5つの機能のうち、「高 齢者活動拠点（高齢者活動センター）」、「人材育成・研修拠点（研修セン ター）」、「多世代交流拠点（ひだまりホール）」の3つの機能は、社会福祉 協議会が指定管理者として運営しています。					
	事業開始 年度	平成27年度					
事業費・ コスト	予算現額		決算額			執行率	
	127,926,000円		126,758,751円			99.1%	
	コスト単位	利用者1人あたり					(69,096人)
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)	
		1,835円	[96.3%]	71円	[3.7%]	1,906円	[100.0%]
事業実績	○平成30年度実績						
	<p>(1) 高齢者活動センター：事業参加人数 延べ63,774人、入浴者数 延べ22,919人</p> <p>(2) 研修センター：事業実施回数及び参加人数 157回実施 延べ3,404人</p> <p>研修センターでは、専門職向けに認知症ケア強化研修を実施しました。また、腰痛 といった介護職の負担を軽減し、離職を防止するため、介護支援ロボットの検証事業 を実施しました。その成果発表会では、より効果的に利用するために、介護ロボットの 特性に合わせて職場の運営手順を見直す必要があることなどを共有しました。さら に、介護人材の確保を目的に介護・福祉の仕事相談面接会を開催したほか、初めて区 内介護施設の見学会を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア強化研修 (12回) 介護専門職、介護ボランティア等 延べ631人 ・医療的ケア研修 喀痰吸引等研修 (第2号研修) を実施 区内介護施設等従事者6名参加。うち5名が資格取得 ・介護・福祉の仕事相談面接会 参加者53名 (区内介護施設就職 5名) ・介護施設見学会 参加者26名 (区内介護施設就職 1名) <p>(3) 多世代交流拠点：事業実施回数及び参加人数 33回実施 延べ1,918人</p>						
現況と令和2 年度予算への 対応	<p>高齢者総合サポートセンター設置のコンセプトを明確にして、各拠点の連携を強化す ることが最大の課題です。高齢者活動センターは、利用登録者数が伸び悩んでいること が課題です。研修センターでは、研修メニューの体系化、医療職の研修ニーズの把握が 課題です。介護支援ロボット検証事業終了後は、介護保険施設等人材確保・定着・育成 支援のひとつとして、補助事業の実施を検討していきます。</p> <p>令和元年度は、それぞれの拠点の事業を充実するとともに、これまでの実績を踏まえ て、指定管理者の要求水準を精査し、次期指定管理者選定を行います。</p> <p>令和2年度は、引き続き活動拠点登録者の増や研修センターの機能充実に加え、高齢 者の生きがいづくりの支援、在宅生活を支える介護人材の育成・確保などを含め各拠点 間、社会福祉協議会及びシルバー人材センターとの連携を強化しながら、地域包括ケア システム推進の象徴的施設と位置付けた高齢者総合サポートセンターの意義を高めるた めの取組みを進めます。</p>						
	所管課 保健福祉部 在宅支援課		決算参考書		162頁	H30予算の概要	

35 介護施設等助成【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括 ケアシステムを構築・推進します
------------------------	--

事業概要	内容	<p>区は、区内の高齢者施設の安定的な運営を図るとともに、質の高い介護サービスの提供に資するため、施設を運営する社会福祉法人の取組みに対し助成します。</p> <p>(1) 介護施設運営助成 区内6つの高齢者施設を運営する社会福祉法人に対し、経管栄養等医療対応入所者のベッド確保等にかかる補助や職員の配置基準を超えて職員を配置している場合の増配置分の経費の一部助成などを行います。</p> <p>(2) 介護施設改修助成 民設民営施設の大規模改修や地球温暖化対策に資する省エネルギー診断後の設備改修等に係る経費を助成します。</p>
	事業開始年度	(1) 平成15年度 (2) 平成30年度

		予算現額	決算額	執行率	
事業費・コスト	(1) 介護施設運営助成	126,356,000円	106,394,526円	84.2%	
	(2) 介護施設改修助成	50,000,000円	44,917,000円	89.8%	
	コスト単位	(1) 補助対象1施設あたり	(6 施設)		
		(2) 助成1件あたり	(3 件)		
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
	(1)	17,732,421円 [93.6%]	1,222,163円 [6.4%]	18,954,584円	[100.0%]
	(2)	14,972,333円 [97.4%]	407,388円 [2.6%]	15,379,721円	[100.0%]

事業実績	○平成30年度実績
	<p>(1) 介護施設運営助成</p> <p>①岩本町ほほえみプラザ事業運営助成 52,342,526円</p> <p>②一番町特別養護老人ホーム事業運営助成 17,499,000円</p> <p>③特別養護老人ホームかんだ連雀事業運営補助 18,582,000円</p> <p>④ジロール麹町小規模特別養護老人ホーム事業運営補助 5,000,000円</p> <p>⑤派遣職員人件費・正規職員雇用手数料補助 4施設25名分 12,971,000円</p> <p>(2) 介護施設改修助成 ジロール神田佐久間町及びかんだ連雀の大規模改修に対し助成しました。</p> <p>①ジロール神田佐久間町 省エネルギー設備改修工事 5,953,000円</p> <p>②かんだ連雀 特別養護老人ホーム居室空調修繕工事 35,964,000円 1階改修工事 3,000,000円</p>

2年度事業実績を踏まえた
課題及び現況との対応

介護施設運営助成は、介護報酬の改定や介護人材不足への対応なども考慮し、助成内容を適切に見直すことが必要です。令和元年度は、新たに常勤職員の基準以上の配置に対する助成を都市型軽費老人ホーム等にも拡大します。さらに、特別養護老人ホームに対し、区による入所調整に伴い発生する新規入所者決定までの手続きに要する期間について、介護報酬等減収への一部助成を行います。令和2年度も引き続き、事業運営の実態を踏まえた補助を継続します。

介護施設改修助成は、施設規模等を考慮した助成基準額の見直しが課題です。令和元年度は、東京都による同様の施策との連動性を高めるとともに、改修が必要な施設に対して、適切な助成支援を実施します。令和2年度も引き続き老朽化した介護保険施設の改修への補助を継続します。

所管課 保健福祉部 高齢介護課	決算参考書	164頁	H30予算の概要	92頁
-----------------	-------	------	----------	-----

36 介護人材確保・定着・育成支援【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括ケアシステムを構築・推進します
------------------------	--

事業概要	内容	<p>介護職員の処遇は、平成24年度介護報酬改定における介護職員処遇改善加算等により、経済的改善はされつつありますが、労働環境や人材育成面においては改善が十分とは言えない状況です。</p> <p>区は、拡大する介護ニーズに的確に対応し、質の高いサービスを安定的かつ継続的に提供できるよう、介護保険施設の人材確保・職員の定着・育成を重要課題としてとらえ、国や都の施策に先駆けて開始した区独自の支援を継続実施しています。平成30年度は助成対象となる取組事項を従来の2項目から7項目に拡充します。</p>
	事業開始年度	(1) 平成20年度 (2) 平成27年度 (3) ~ (7) 平成30年度

事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率	
	(1) 介護保険施設等人材確保・定着・育成支援	47,148,000円	45,171,000円	95.8%	
	(2) 高齢者サービス事業所産休・育休等代替職員確保助成	7,200,000円	3,414,485円	47.4%	
	(3) 介護支援専門員研修費用助成	1,491,000円	465,000円	31.2%	
	(4) 介護従事者永年勤続表彰	900,000円	728,218円	80.9%	
	(5) 介護従事者用サポートウェア配布	8,794,000円	7,257,600円	82.5%	
	(6) 介護施設内保育機能整備助成	6,238,000円	4,990,000円	80.0%	
	(7) 介護人材奨学金支援助成	6,000,000円	381,420円	6.4%	
	コスト単位	(1) 補助1施設あたり			(6 施設)
		(2) 助成1事業所あたり			(2 事業所)
		(3) 助成1件あたり			(19 件)
		(4) 表彰者1人あたり			(68 人)
		(5) 配布1着あたり			(350 着)
		(6) 整備1施設あたり			(1 施設)
		(7) 助成1人あたり			(2 人)
コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)		
(1)	7,528,500円 [98.2%]	135,796円 [1.8%]	7,664,296円 [100.0%]		
(2)	1,707,243円 [80.7%]	407,388円 [19.3%]	2,114,631円 [100.0%]		
(3)	24,474円 [22.2%]	85,766円 [77.8%]	110,240円 [100.0%]		
(4)	10,709円 [18.3%]	47,928円 [81.7%]	58,637円 [100.0%]		
(5)	20,736円 [81.7%]	4,656円 [18.3%]	25,392円 [100.0%]		
(6)	4,990,000円 [88.4%]	651,820円 [11.6%]	5,641,820円 [100.0%]		
(7)	190,710円 [48.4%]	203,694円 [51.6%]	394,404円 [100.0%]		

事業実績	○平成30年度実績
	<p>介護従事者の処遇改善のため、研修費用や奨学金への助成、永年勤続表彰及びサポートウェアの配布を実施しました。併せて、介護従事者の子を日・祝日にお預かりする保育機能の整備を行いました。</p> <p>研修費用と奨学金の助成は実施初年度で周知期間が短く、産休・育休等代替職員確保助成は、取得者数の想定3名に対し実績が2名のため執行率が低くなりました。</p>
	(1) 助成施設数：6施設 (2) 助成事業所数：2事業所 (2名)
	(3) 助成人数：19人 (4) 勤続20年以上：16人 勤続10年以上：52人
	(5) 配布枚数：350着 (6) 整備施設数：1施設
	(7) 助成人数：2人

2年度事業実績及び予算への対応	<p>平成30年度に開始した事業については、利用者の増加により事業効果を高めることが必要であり、事業者への周知や手続きの簡素化が今後の課題です。</p> <p>令和元年度は、周知や対象の把握に努め、補助を継続します。</p> <p>令和2年度は、令和3年度当初開設予定の二番町高齢者施設を含めて、より効果的な人材確保・定着・育成支援の充実に資する制度として、事業内容を検討していきます。</p>
-----------------	---

所管課 保健福祉部 高齢介護課	決算参考書	164頁	H30予算の概要	94頁
-----------------	-------	------	----------	-----

37 高齢者栄養改善【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括 ケアシステムを構築・推進します
------------------------	--

事業概要	内容	<p>買い物や食事づくりが次第に困難になり、咀嚼能力や消化吸収能力の低下、食欲不振などの要因が重なることで低栄養になりやすい高齢者のフレイル（虚弱）予防のため、栄養士などの訪問による栄養改善指導を3か月間（月1回。計3回）実施します。希望者には併せて栄養バランスの良い配食を体験してもらうことで、栄養状態を改善して、フレイル予防・介護予防を図ります。</p> <p>※フレイル…健康な状態から要介護へ移行する中間の段階で、加齢に伴い筋力や認知機能などの心身の活力が低下している状態</p>
	事業開始年度	平成30年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率	
	15,300,000円		3,036,700円		19.8%	
	コスト単位	利用者1人あたり			(85人)	
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
		35,726円	[48.2%]	38,342円	[51.8%]	74,068円 [100.0%]

事業実績	○平成30年度実績					
	区内に住所を有する65歳以上の方で、自身の栄養改善を希望する方に栄養指導を行いました。					
	(1) 栄養改善指導					
	①利用者数					
	コース	A	B	C	D	計
	実施月	4～6月	7～9月	10～12月	翌1～3月	
	利用者数	53人	8人	14人	10人	85人
	②栄養士による訪問回数 延べ240回					
	(2) 配食体験利用者数 79人					
	(3) 管理栄養士による訪問指導が「今後の生活に役立つ」と回答した人数 34人 (栄養指導終了者81人にアンケートを送付。回答数37人)					
	栄養改善の利用者数を300名と見込んでいましたが、利用者数が想定よりも大幅に少なかったため、執行率が低くなりました。					

2年度事業実績を踏まえた 課題及び現況への対応	利用者数を増やしていくため、事業の周知を図るとともに栄養改善の必要性を啓発することが課題です。					
	令和元年度は、引き続き事業を実施するとともに、高齢者本人のみならず、家族や支援者（ケアマネジャー、町会関係者、民生・児童委員など）にも、フレイル予防として栄養状態の改善が重要であることを普及啓発していきます。 令和2年度は、フレイル予防の重要性について普及啓発を行うとともに、他のフレイル予防事業と併せて実施方法等を見直します。					

所管課 保健福祉部 在宅支援課	決算参考書	164頁	H30予算の概要	97頁
-----------------	-------	------	----------	-----

38 高齢者活動支援事業【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括 ケアシステムを構築・推進します
------------------------	--

事業概要	内容	<p>区の高齢者福祉施設を運営する社会福祉法人は、地域ニーズに応じて高齢者の健康維持、介護予防の推進、参加交流などを目的とした事業を独自に実施しています。</p> <p>こうした事業を支援し、高齢者の積極的な健康づくりや介護予防活動、コミュニティ形成を推進するため、高齢者施設（いきいきプラザ一番町、西神田コスモス館、岩本町ほほえみプラザ）で実施する独自事業に対して必要な経費を助成します。</p>
	事業開始年度	平成30年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率		
	7,300,000円		5,670,183円		77.7%		
	コスト単位	延べ参加者1人あたり (5,284人)					
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)	
		1,073円	[77.7%]	308円	[22.3%]	1,381円	[100.0%]

事業実績	○平成30年度実績					
	区有の高齢者福祉施設で介護保険サービスの提供等を行う3つの社会福祉法人に対して、独自事業の経費助成を行いました。					
	法人名	東京栄和会（会場…いきいきプラザ一番町）				
		事業数4 開催回数83回 延べ参加者数1,277人				
法人名	奉優会（会場…西神田コスモス館）					
	事業数2 開催回数75回 延べ参加者数966人					
法人名	多摩同胞会（会場…岩本町ほほえみプラザ）					
	事業数9 開催回数253回 延べ参加者数3,041人					

現況と令和2年度予算への対応	<p>高齢化が進む中で、健康寿命の延伸をめざすこれからの介護予防には、「心身機能」の改善に加え、地域での「活動」や「参加」の重要性が指摘されています。そのためには、新たな仲間づくりの場、楽しみや生きがい得られる活動の場への参加を通じて、高齢者自身が「役割や生きがいを持って生活できる」と実感できるよう、生活への意欲を高める地域での働きかけが必要です。</p> <p>令和元年度は、社会福祉法人の補助金事務の効率化を図りながら、地域ニーズの高い独自事業の展開を支援します。</p> <p>令和2年度は、各施設での独自事業を高齢者が自主運営できるような働きかけを進めます。</p>					

所管課 保健福祉部 在宅支援課	決算参考書	164頁	H30予算の概要	98頁
-----------------	-------	------	----------	-----

39 認知症関連事業

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		認知症高齢者を地域で見守り、支えるしくみを強化しま す				
事業概要	内容	<p>(1) 認知症支援サービス (一般会計) 区内の認知症サポート医やかかりつけ医、医療機関と連携し、医療相談体制を整え、地域での理解促進と支援体制の強化を図ります。また、介護予防把握事業の郵送調査に未返送の高齢者に対して看護師による訪問調査を実施し、支援が必要な方に訪問看護師による見守りや相談支援を行います。</p> <p>(2) 認知症総合支援事業 (介護保険特別会計) 認知症高齢者の支援を早期から行うために、認知症地域支援推進員を配置して医療と介護のサービスコーディネートを行い、安定した生活が送れるよう支援を強化します。また、認知症サポーターの養成、認知症カフェ等支援の体制を整えます。</p>				
	事業開始 年度	(1) 平成23年度 (2) 平成27年度				
事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率		
	(1) 認知症支援サービス		5,536,000円	4,393,627円	79.4%	
	(2) 認知症総合支援事業 (介護保険特別 会計)		13,935,000円	12,495,684円	89.7%	
	コスト単位	(1) 40歳以上の区民1人あたり		(32,465人)		
		(2) 40歳以上の区民1人あたり		(32,465人)		
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
	(1)	135円	[60.5%]	88円	[39.5%]	223円 [100.0%]
(2)	385円	[75.5%]	125円	[24.5%]	510円 [100.0%]	
事業実績	<p>○平成30年度実績 認知症は早期発見による治療と対応で症状の進行を緩やかにできるとされており、早期発見のための調査及び相談支援、普及啓発等を行いました。</p> <p>(1) 認知症支援サービス ①認知症早期発見：訪問対象者113人中55人に対面調査を実施し、支援が必要な4人を把握し、支援等を行いました。 ②認知症ケア推進チーム定例会：年12回開催 ③訪問看護ステーションによる認知症相談支援業務：相談支援者数 6人 ④認知症ケアパス：「認知症ケアの手引き」1,547部配布</p> <p>(2) 認知症総合支援事業 ①認知症初期集中支援推進事業：認知症初期集中支援 11件実施 ②認知症地域支援推進員：認知症相談実人数 966人 ③認知症サポーター養成講座：61回実施。サポーター数 2,168人 (総計16,447人) ④医師会による総合支援業務：認知症サポート医等の活動 16回 ⑤認知症カフェ：麴町地区24回、神田地区24回開催</p>					
	2年度 課題 実績 予算 及び 現況 を踏 ま え た 対 応	<p>認知症高齢者が増加していることから、認知症の早期発見と支援の充実が課題です。令和元年度は、認知症地域支援推進員の配置、認知症早期発見事業、認知症サポーターの養成等、認知症高齢者の支援を行い、早期から安定した在宅生活が確保されるような支援体制づくりに取り組んでいます。</p> <p>令和2年度は、令和元年度に引き続き、認知症地域支援推進員を中心とした医療・介護連携による支援体制を周知しつつ、認知症本人・家族への支援を行い、認知症になっても地域で安全に安心して暮らせるまちづくりをめざします。</p>				
所管課 保健福祉部 在宅支援課		決算参考書 164、356頁		H30予算の概要	100頁	

40 障害者への合理的配慮の推進【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		障害があっても暮らしやすい地域をめざします				
事業概要	内容	<p>平成28年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を踏まえ、「千代田区における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」及びその「留意事項」を作成し、区の事務事業において、不当な差別的取扱いの禁止と障害の特性に応じた配慮の提供を推進します。</p> <p>また、平成28年10月に制定した「千代田区障害者の意思疎通に関する条例」の趣旨を広く普及させる取組みを継続して実施します。</p> <p>さらに、平成30年度からは、在勤・在学者も含め、障害等のある方の気持ちに寄り添ってサポートできる「心のバリアフリー」を推進する障害者サポーター「ハートクルー」を養成し、その実践的な行動や普及・啓発活動を通して、共生社会の実現をめざします。</p>				
	事業開始年度	平成28年度				
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率	
	7,094,000円		4,079,516円		57.5%	
	コスト単位	障害者1人あたり		(1,869人)		
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
2,183円		[66.7%]	1,090円	[33.3%]	3,273円 [100.0%]	
事業実績	○平成30年度実績					
	<p>(1) 手話通訳等の推進 派遣回数18回</p> <p>(2) 手話通訳等実施費用助成 助成件数8件 助成件数を60件と見込んでいましたが、区関連イベント以外の申請が少なかったことにより執行率が低くなりました。</p> <p>(3) 障害者への合理的配慮の提供及び普及・啓発</p> <p>①合理的配慮提供に資する物品の配備等 ・視覚障害者への案内文等作成用「点字プリンタ」の設置 1台</p> <p>②研修の実施等 ・区民向け研修 手話体験講座～はじめて学ぶ編～ (12月7日) ・福祉体験プログラム フクシ☆チャレンジ (10月20日 第16回福祉まつりのコーナー出展)</p> <p>(4) 視覚障害者等への外出支援や社会参加の促進 ・ことばの道案内 46施設、68ルート (平成31年3月末現在)</p> <p>(5) 障害者サポーター「ハートクルー」 養成講座 実施回数3回、受講者数59名</p>					
2年度事業実績を踏まえた課題及び現況と令和2年度予算への対応	<p>平成28年に制定した「千代田区障害者の意思疎通に関する条例」の普及啓発に努める中で、特に手話通訳等の推進を図っていますが、手話通訳等実施費用助成の実績が増えないことが課題です。</p> <p>令和元年度は、より広範に合理的配慮が理解されることを意図し、区民向けの「ガイドブック」を作成するとともに、障害者サポーター「ハートクルー」養成講座を拡充します。また、点字プリンタの区事業での活用を検討し、方向性を示します。</p> <p>令和2年度は、障害等への理解に基づく地域での見守りや支援の普及啓発に向けた取組みについて、検討を進めます。また、手話通訳等の推進にあたり、従来の大学、専修各種学校に加えて、商工団体・福祉団体等に対して手話通訳等実施費用助成の事業紹介・周知を行います。</p>					
所管課	保健福祉部	障害者福祉課	決算参考書	166頁	H30予算の概要	103頁

41 障害者よろず総合相談【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	障害があっても暮らしやすい地域をめざします
------------------------	-----------------------

事業概要	内容	障害のある方やその家族等からの身近な相談ごとや障害特性に応じた専門的な相談にも対応するため、障害者よろず総合相談を新たに実施します。 また、地域の方々や事業所等と連携を深めるネットワークづくりの中核となることで、区の障害者福祉の理念である「障害があっても安心して暮らし続けられる地域づくり」をめざします。
	事業開始年度	平成30年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率	
	64,518,000円		64,475,346円		99.9%	
	コスト単位	利用1件あたり			(890件)	
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)
72,444円		[94.1%]	4,577円	[5.9%]	77,021円	[100.0%]

事業実績	○平成30年度実績			
	「千代田区障害者よろず相談MOFCA（モフカ）」を開設し、委託により運営 開設日：平成30年9月3日 場所：一ツ橋一丁目1番1号パレスサイド・ビルディング1階			
	(1) 相談利用人数			
	内容		延べ利用者数	
総合相談・専門相談	来所	65人	区民	124人
	電話	48人	区民以外	23人
	メール相談	7人		15人
	地域移行・地域定着	0人		0人
権利擁護・虐待防止	1人			2人
計		121人		164人
※電話の問い合わせのみ（相談を除く）745人、見学目的の来訪651人				
(2) 居場所づくり利用人数				
内容		延べ利用者数		
居場所づくり	居場所としての利用	357人		
	主催イベント参加	248人		
(3) 地域の相談支援体制の強化の取組み（事業所を対象） 0件				

現況と令和2年度予算への対応	<p>広報活動や各種イベント事業の定例実施等により施設の周知を図っていますが、区民の認知度が低く、利用の拡大が課題です。また、施設に来場が困難な方への職員による入室までの介助誘導等の対応・アウトリーチなどの個別の支援のほか、地域の相談支援体制の強化の取組みも課題となっています。</p> <p>令和元年度からは、SNSのさらなる活用等による周知のほか、これまでの平日開業に加え土曜日も開業することにより、新たな相談者の掘り起こしや、精神障害、発達障害など孤立しやすい方の利用の増加を図ります。また、来場予約の際には行動能力等を聴取するなどし、利用者のサポートを行っていきます。</p> <p>令和2年度は、実施状況やニーズを踏まえて、特に精神障害のある方への支援を充実することで利用の拡大を図ります。また、令和元年度に引き続き、「障害者福祉センターえみふる」と連携して、地域の相談支援体制の強化を図ります。</p>		

所管課 保健福祉部 障害者福祉課	決算参考書	168頁	H30予算の概要	104頁
------------------	-------	------	----------	------

42 障害者福祉センターえみふる管理運営【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	障害があっても暮らしやすい地域をめざします
------------------------	-----------------------

事業概要	内容	<p>身体・知的・精神障害や難病のある方が利用する地域福祉の拠点として、障害者福祉センター「えみふる」を開設し、指定管理者制度により運営しています。地域活動支援センターとして、レクリエーションや各種リハビリ等を行うとともに、グループホームやショートステイ、計画相談や生活介護の事業所機能を備え、障害等のある方の地域での生活を支援しています。</p> <p>平成30年度は、ショートステイの利用対象者を従来の18歳以上から高校1年生（相当年齢）以上に拡大するとともに、日中一時支援の利用日数を週2日から週3日に拡大し、より手厚い支援を行います。</p>
	事業開始年度	平成21年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率
	(1) 土地賃借料	15,765,000円	15,615,841円	99.1%	
	(2) 指定管理料	222,620,000円	200,620,000円	90.1%	
	(3) 利用助成	2,328,000円	1,510,773円	64.9%	
	(4) 維持補修等	1,293,000円	0円	0.0%	
	コスト単位	(1) 利用者1人あたり	(15,480人)		
		(2) 利用者1人あたり	(15,480人)		
		(3) 利用助成1人あたり	(1,410人)		
		(4) 利用者1人あたり	(15,480人)		
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)
(1)	1,009円 [98.9%]	11円 [1.1%]	1,020円 [100.0%]		
(2)	12,960円 [99.9%]	11円 [0.1%]	12,971円 [100.0%]		
(3)	1,071円 [43.6%]	1,387円 [56.4%]	2,458円 [100.0%]		
(4)	0円 [0.0%]	11円 [100.0%]	11円 [100.0%]		

事業実績	○平成30年度実績						
	(1) 障害者福祉センター利用実績			(2) 生活介護事業利用実績			
		平成30年度	平成29年度		平成30年度	平成29年度	
	延べ利用者総数	13,399人	14,315人	利用者数(延べ)	2,081人	1,706人	
	1 地域活動支援センター (I型)	9,941人	12,317人	定員	20人	20人	
	2 グループホーム・短期入所	2,332人	1,998人	実利用者数	12人	11人	
	3 日中一時支援	1,126人	試行実施のため 集計なし				
	(3) 利用助成実績						
	助成内容	平成30年度			平成29年度		
		利用人数	実利用人数	助成金額	利用人数	実利用人数	助成金額
療浴事業利用助成	231人	4人	115,500円	434人	6人	147,500円	
グループホーム利用助成	1,179人	3人 〔入所1人 退所1人〕	1,395,273円	640人	3人 〔途中入所 2人〕	759,807円	
合計	1,410人	7人	1,510,773円	1,074人	9人	907,307円	

2年度事業実績を踏まえた 課及現況への対応	サービスへの需要が高まる中、利用対象や実施の拡大、ショートステイの不足等が課題です。
	<p>令和元年度は、日中一時支援の利用日数を週3日から週5日へ拡大します。また、ショートステイの増床工事を行い定員を2名から4名に拡充するほか、障害者・障害児の介護者レスパイト・障害児タイムケアのサービス開始に向けて準備を行い、順次実施していきます。さらに、ニーズを踏まえて事業内容を精査し、障害者福祉センターにふさわしい効果的かつ効率的な運用を行えるよう基本協定を確定します。</p> <p>令和2年度はこの新たな協定に基づき、サービス需要に適切に応えていきます。</p>

所管課 保健福祉部 障害者福祉課	決算参考書	168頁	H30予算の概要	105頁
------------------	-------	------	----------	------

43 精神障害者就労継続支援施設の整備・運営補助【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	障害者の就労を支援します
------------------------	--------------

事業概要	内容	<p>千代田区内には、一般企業に就職することが難しい精神障害がある方の継続的な就労を支援するための事業所が不足しています。</p> <p>地価が高く空地の少ない区内で新たな場所を確保し、施設を整備して障害福祉サービスを提供することは容易ではなく、自立支援給付だけでは賃料を支払いながらの事業運営は困難です。</p> <p>そこで、区の障害者福祉の理念を踏まえ、既存のビルを活用して精神障害者就労継続支援事業所を開設・運営する事業者に対し、整備に関する経費と運営に関する経費を支援します。</p>
	事業開始年度	平成30年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率		
	87,510,000円		74,863,000円		85.5%		
	コスト単位	補助1施設あたり (1施設)					
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)	
		74,863,000円	[95.8%]	3,259,102円	[4.2%]	78,122,102円	[100.0%]

事業実績	○平成30年度実績									
	補助事業所：1事業所（平成30年7月開設）									
	開設補助 35,756,000円									
	運営補助 39,107,000円（平成30年7月から平成31年3月まで）									
※参考										
補助事業所の月別利用実績										
(単位：人)										
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
登録人数	1	2	5	6	8	8	13	14	16	
内区民	0	1	2	3	5	5	6	5	4	
延べ利用者数	8	29	43	75	95	91	118	134	157	
内区民	0	21	21	35	58	56	54	57	53	

現況と令和2年度予算への対応	<p>精神障害等のある方が必要とする就労支援サービスの量を確保するため、就労継続支援施設が安定して運営できるよう支援していくことが課題です。</p> <p>令和元年度は、利用者の増などによる安定した事業運営ができるように、事業者に対して指導助言するとともに、必要な支援を行っています。</p> <p>令和2年度は、施設の整備と運営状況、区民ニーズ等を確認しながら、より安定的な運営につながるよう支援方法等を見直していきます。</p>
----------------	--

所管課 保健福祉部 障害者福祉課	決算参考書	170頁	H30予算の概要	109頁
------------------	-------	------	----------	------

44 障害者就労支援センター事業【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	障害者の就労を支援します
------------------------	--------------

事業概要	内容	<p>障害者の自立と社会参加を一層推進し、一般就労の機会拡大を図るとともに、安定的な就労の継続を支援することが必要です。</p> <p>そのため、障害者就労支援センターでは、障害のある方の個々の状況に応じて就職への意識付け・生活環境指導・生活設計等の相談支援、適正評価、職探し、実習同行、職場環境や障害理解などの調整、就職後の定着を行います。</p> <p>また、東京商工会議所千代田支部等と連携し、障害者雇用に取り組む企業への情報提供や相談対応を行うことで企業開拓・職場開拓を行います。</p> <p>さらに、雇用促進事業として、障害者を雇用している又は実習を受け入れている企業の雇用主（総従業員数45.5人未満）に対して、援助金を支給するとともに、実習を行った障害者には奨励金を支給します。企業等に向けて開催している地域交流会（講演会等）では、参加企業に対して雇用援助金等に関して周知し、効果的なマッチングを図ります。</p>
	事業開始年度	平成16年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率		
	31,554,000円		29,768,847円		94.3%		
	コスト単位	(1) 登録者1人あたり (172人)					
		(2) 雇用・実習1人あたり (5人)					
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)	
	(1)	171,307円	[97.3%]	4,737円	[2.7%]	176,044円	[100.0%]
(2)	60,800円	[27.2%]	162,955円	[72.8%]	223,755円	[100.0%]	

事業実績	○平成30年度実績			
	(1) 障害者就労支援センター			
		平成30年度	平成29年度	平成28年度
	就労支援 (職業に関する相談)	3,265件	2,955件	2,908件
	生活支援 (生活に関する相談)	1,160件	1,124件	709件
	職域開拓促進 (企業支援・職場開拓)	85件	0件	0件
	地域交流会	4回 (175名)	4回 (220名)	4回 (224名)
	障害者就労地域連携ネットワーク連絡会 (企業の参加は平成29年度から開始)	4回 (20事業者・11社参加)	4回 (16事業者・7社参加)	4回 (12事業者参加)
	就労支援講座 (平成30年度から開始)	12回	-	-
	(2) 雇用促進援助事業			
	平成30年度	平成29年度	平成28年度	
雇用援助金	2社 (2人雇用)	2社 (2人雇用)	2社 (2人雇用)	
実習奨励金	2人 (15日)	3人 (15日)	4人 (22日)	
実習受入報奨金	1社	0社	2社	

2年度事業実績を踏まえた課題及び令和の対応	<p>相談件数が増加の傾向にある中で、障害者の就労支援ニーズに対応する相談支援業務の質を確保していくためには、障害者就労支援センターの業務体制を強化する必要があります。</p> <p>このため、令和2年度は令和元年度に引き続き企業の情報収集に努め、ハローワーク等関係機関との連携をさらに進めていくほか、障害等のある方を対象とした就労支援講座や、企業とのマッチングのための就労実習面談会をより充実させていきます。また、就労支援に必要な資格取得に向けて人材育成を強化し、ニーズの高まりに対応できるよう支援体制の充実に努めます。</p>
-----------------------	---

所管課 保健福祉部 障害者福祉課	決算参考書	170頁	H30予算の概要	110頁
------------------	-------	------	----------	------

45 人材確保・定着支援【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		障害があっても暮らしやすい地域をめざします		
事業概要	内容	<p>少子高齢化による労働人口の減少や労働環境の過酷さから、障害者福祉に関わる人材の確保や定着が課題となる中、障害者福祉に携わる人たちへの家賃助成等を行うことにより良好な就労環境を確保することで、社会資源の限られた千代田区において質の高い障害福祉サービスを継続的に提供できるよう支援します。</p> <p>補助基準は次のとおりです。</p> <p>(1) 区内の障害者グループホーム等を運営する法人が職務住宅として区内にマンション等を借り上げた場合の賃料を補助します。(上限月額8万円)</p> <p>(2) 上記(1)の法人の従業者に対する、23区内における住宅手当、家賃補助等を補助します。(上限月額は、千代田区内5万円、23区内2万円)</p>		
	事業開始年度	平成30年度		
事業費・コスト	予算現額	決算額		執行率
	9,600,000円	1,632,959円		17.0%
	コスト単位	助成1事業所あたり (2事業所)		
	コスト内訳	事業費等(A)	人件費(按分)(B)	総コスト(C=A+B)
	816,480円 [57.2%]	611,082円 [42.8%]	1,427,562円 [100.0%]	
事業実績	<p>○平成30年度実績</p> <p>補助事業所数：2事業所 計9件</p> <p>内訳(1)千代田区内に借り上げる従業者向け住宅の賃料補助 1件</p> <p>(2)賃貸住宅に居住している従業者の住宅手当への補助</p> <p>①千代田区内に居住 3件</p> <p>②23区内に居住 5件</p> <p>12か月分の補助を見込んでいましたが、補助対象施設の開設が年度途中からになったことや、年度途中で転居や退職等で対象の従業者が減ったこと等により、執行率は低くなりました。</p>			
事業実績を踏まえた課題及び 現況と令和2年度予算への対応	<p>千代田区内で障害者福祉サービスを継続的に提供していくためには、安定した人材の確保が課題です。</p> <p>令和2年度は令和元年度に引き続き、補助対象事業所において人材を安定して確保できるよう支援していきます。</p>			
所管課 保健福祉部 障害者福祉課	決算参考書	170頁	H30予算の概要	107頁

46 障害者施設整備調査検討【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		障害があっても暮らしやすい地域をめざします			
事業概要	内容	平成29年度に改定した障害者計画等では、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる千代田区をめざすことを方針としています。 この方針を踏まえるとともに、障害者の入所施設整備を求める区民の声、強い要望を真摯に受け、一定規模の施設入所を実施できる施設を区内に整備するため、障害者支援協議会及びその下命を受けた計画部会の協議・検討による施設整備の方向性を基本構想としてまとめます。			
	事業開始年度	平成30年度			
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率
	4,180,000円		4,158,000円		99.5%
	コスト単位	調査1施設あたり		(1施設)	
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	
4,158,000円		[71.8%]	1,629,551円	[28.2%]	5,787,551円 [100.0%]
事業実績	<p>○平成30年度実績</p> <p>障害者施設整備の検討にあたっては、学識経験者や障害当事者等、25名の委員で構成された千代田区障害者支援協議会及びその下命を受けた計画部会の協議・検討による施設整備の方向性を基本構想としてまとめ、「千代田区障害者支援施設整備に向けた検討のまとめ 報告書」を作成しました。</p> <p>◎第1回全体会 (10月4日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設検討について、計画部会において協議することを確認 <p>○第1回計画部会 (10月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧千代田保健所における福祉的活用の考え方、今後の検討スケジュールについて確認 他区の福祉施設見学の実施を決定 <p>○施設見学 (11月16日) 文京区総合福祉センター リアン文京</p> <p>○第2回計画部会 (11月26日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設見学の報告 旧千代田保健所における福祉的活用の考え方等を協議 <p>◎第2回全体会 (12月10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画部会の協議事項について (中間報告) <p>○第3回計画部会 (1月21日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備のコンセプトとキーワード、複合施設の整備内容と役割等を協議 <p>○第4回計画部会 (2月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備に関する今後の課題等について協議 <p>◎第3回全体会 (3月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画部会での協議結果について (報告) 				
2 事業 年度 課 題 予 算 及 び 現 況 と 踏 ま え た 令 和 2 年 度 の 対 応	<p>本事業は、施設整備の方向性を基本構想としてまとめたことにより、平成30年度で完了しました。</p> <p>令和元年度は、前年度に基本構想としてまとめた施設整備の方向性を踏まえ、引き続き協議会等での協議に基づく意見を尊重しながら、旧千代田保健所敷地の活用による障害者支援施設と高齢者施設との (仮称) 神田錦町三丁目福祉施設の基本計画を策定します。</p> <p>令和2年度は、プロポーザルによる施設運営事業者の選定を行い、その運営方針を基本設計等に活かしていきます。</p>				
所管課 保健福祉部 障害者福祉課		決算参考書	170頁	H30予算の概要	107頁

47 精神障害者グループホームの整備・運営補助【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		障害があっても暮らしやすい地域をめざします			
事業概要	内容	「障害のあるなしに関わらず、その人らしさが尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる千代田区の実現」に向け、精神障害のある方が地域で自立して生活するグループホームの整備が求められています。区内に新しい土地を確保し建物を整備するには時間を要することから、既存のマンション等を活用して精神障害者の通過型のグループホームを開設・運営する事業者に対し、整備に関する経費と運営に関する経費を補助します。			
	事業開始年度	平成30年度			
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率
	46,851,000円		7,159,000円		15.3%
	コスト単位	補助1施設あたり (1施設)			
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	
7,159,000円 [68.7%]		3,259,102円 [31.3%]	10,418,102円 [100.0%]		
事業実績	<p>○平成30年度実績 補助事業所：1事業所（平成30年9月開設） 共有スペース1室、居室4室を整備 整備補助 2,998,000円 運営補助 4,161,000円（平成30年9月～平成31年3月） ※参考 平成31年3月末現在で4室中3室が入居 居室12室の整備を予定していましたが、4室の整備となったことから執行率が低くなりました。</p>				
					
▲居室の様子					
2年度予算への対応	<p>精神障害者グループホームの需要に応じて、必要な居室数を継続して確保するため、グループホームの安定的な運営を支援していくことが課題です。 令和元年度は、グループホームが安定的に運営されるよう運営事業者への支援、指導を行っていきます。 令和2年度は、実績や区民ニーズを踏まえてグループホームの需要を見極め、それに 応じて事業者がより安定した運営ができるよう、補助の内容等を見直していきます。</p>				
	<p>事業実績を踏まえた</p>				
所管課 保健福祉部 障害者福祉課		決算参考書	170頁	H30予算の概要	106頁

48 (仮称) 二番町高齢者施設の整備

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向け、地域包括 ケアシステムを構築・推進します			
事業概要	内容	区は、安心して暮らし続けられる千代田区の実現のため、区有地や民有地等 を活用して事業者を誘致し、特別養護老人ホームなどの介護施設を計画的に整 備することとしています。二番町の国有地を活用して介護施設を整備するた め、平成28年度に事業者（社会福祉法人平成会）を区が選定しました。 平成29年度に国による埋設物の撤去工事が完了したことを受け、平成30年度 は建物の整備費への補助や土地の賃料への補助を行います。			
	事業開始 年度	平成28年度			
事業費・ コスト	予算現額		決算額		執行率
	617,750,000円		214,752,419円		34.8%
	コスト単位	整備1施設あたり			(1施設)
	コスト内訳	事業費等(A)		人件費(按分)(B)	総コスト(C=A+B)
214,752,419円		[96.9%]	6,844,113円	[3.1%]	221,596,532円 [100.0%]
事業実績	○平成30年度実績 国と整備・運営事業者が国有地の定期借地権による賃貸借契約（50年以上）を締結し たことを受け、事業者が国有地の定期借地権契約を締結する際の一時金の補助や土地の 賃料の補助を行いました。 (1) 補助内容 ①定期借地権契約時一時金支援事業補助金 199,400,000円 ②土地賃借料補助金（8か月分：平成30年8月～平成31年3月） 15,352,419円 なお、平成30年度は工事入札が不調になるなど、整備スケジュールが遅れたた め、整備費補助が未執行となりました。 (2) 施設の概要 ①整備・運営予定事業者 社会福祉法人 平成会 ②整備概要 整備対象国有地：二番町7-26外（地番） 施設規模：地上8階建 ③整備施設（サービス） 特別養護老人ホーム：定員108人（ユニット型） 認知症高齢者グループホーム：定員18人 併設ショートステイ：定員12人 ④整備スケジュール（予定） 令和元年度～令和2年度 新築工事 令和3年度 開設				
	2年度 事業 実績 及び 現況 への 対応	今後も、整備・運営事業者と連携・協力を図るとともに、地域・関係団体の理解を得 ながら、施設整備を進めていく必要があります。 令和元年度は、工事の進捗に伴う整備費の補助を開始します。 令和2年度も引き続き、整備に伴う補助及び土地の賃料補助を行います。			
所管課 保健福祉部 高齢介護課		決算参考書	170頁	H30予算の概要	98頁

49 骨髄移植ドナー支援事業【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	一人ひとりの健康づくりを支援します
------------------------	-------------------

事業概要	内容	公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業へのドナー登録者を増やし、一人でも多くの尊い命を救うため、骨髄又は末梢血幹細胞の提供を完了した者及びその勤務先の事業所に対して、骨髄等の採取に伴う通院や入院の日数に応じて助成金を交付します。
	事業開始年度	平成30年度

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率	
	420,000円		140,000円		33.3%	
	コスト単位	助成1件あたり			(1件)	
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)		総コスト (C=A+B)
	140,000円	[10.3%]	1,222,163円	[89.7%]	1,362,163円	[100.0%]

事業実績	<p>○平成30年度実績</p> <p>(1) 助成内容 骨髄等の採取に伴う通院・入院に要した日数1日につき、ドナーに対して2万円、ドナーが勤務する事業所に対して1万円（上限は7日間）を助成</p> <p>(2) 対象者</p> <p>①骨髄等の採取に伴う通院又は入院期間において千代田区に住所を有する区民で、骨髄等の提供が完了した者（ドナー）</p> <p>②ドナーを雇用する国内の事業主（国、地方公共団体及び独立行政法人を除く）</p> <p>(3) 事業実績</p>															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">年度</th> <th style="width: 25%;">対象</th> <th style="width: 15%;">件数</th> <th style="width: 45%;">内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">平成30年度</td> <td style="text-align: center;">ドナー</td> <td style="text-align: center;">1件</td> <td style="text-align: center;">2万円×7日間</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事業所</td> <td style="text-align: center;">0件</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドナー2件、事業所2件の申請を見込んでいましたが、実績が少なかったことにより執行率が低くなりました。</p>						年度	対象	件数	内訳	平成30年度	ドナー	1件	2万円×7日間	事業所	0件
年度	対象	件数	内訳													
平成30年度	ドナー	1件	2万円×7日間													
	事業所	0件	—													

2年度事業実績及び現況への対応	<p>今後も骨髄等移植の推進を図っていくため、継続的に事業を実施する必要があります。</p> <p>令和元年度は、本事業をより周知するため、区広報紙やホームページでの周知の他、ドナー登録会や献血などのイベントに合わせた周知活動を強化していきます。</p> <p>令和2年度も、公益財団法人日本骨髄バンクや他自治体の助成制度などの動向を踏まえつつ、引き続きドナー登録者数増加に向けた取組みを推進していきます。</p>
-----------------	---

所管課 保健福祉部 地域保健課	決算参考書	174頁	H30予算の概要	82頁
-----------------	-------	------	----------	-----

50 自殺対策計画の策定【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		一人ひとりの健康づくりを支援します			
事業概要	内容	平成28年に自殺対策基本法が改正され、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現をめざして自殺対策を更に総合的かつ効果的に推進するため、全ての区市町村に国の自殺総合対策大綱及びその地域の実情等を勘案した「地域自殺対策計画」の策定が義務付けられました。 このため、検討会議を設置し有識者から幅広い意見を聞き、区の実態や課題に沿った自殺対策計画を策定します。			
	事業開始年度	平成30年度			
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率
	3,495,000円		2,530,340円		72.4%
	コスト単位	区民1人あたり			(64,584人)
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	
39円		[23.6%]	126円	[76.4%]	165円 [100.0%]
事業実績	○平成30年度実績 学識経験者、区内医師会、東京都立精神保健福祉センター、NPO法人、区内警察署、区内消防署、民生・児童委員、区婦人団体協議会、区社会福祉協議会、労働基準監督署及び庁内関係部署等の委員で構成された千代田区自殺対策検討会議を設置し、区における自殺への必要な対策や支援について意見を聴取し、区の実情等を勘案した千代田区自殺対策計画を平成31年3月に策定しました。				
	千代田区自殺対策検討会議 第1回 (平成30年7月24日) 自殺対策基本法の一部改正、区の自殺の状況、自殺対策計画の策定について 第2回 (平成30年11月20日) 計画素案について 第3回 (平成31年2月5日) 意見公募の実施報告、計画案について				
2年度事業実績を踏まえた課題及び現況への対応	本業務は、計画策定のため、平成30年度で完了しました。 令和元年度は、従来の心の健康づくり事業に加え、自殺対策に関わる庁内及び関係機関と緊密な連携・協力体制を強化するとともに、区民への啓発と周知を積極的に行い、自殺対策事業を推進します。また、千代田区自殺対策検討会議において計画の進捗確認及び評価分析を行います。 令和2年度は、令和元年度に引き続き、千代田区自殺対策計画の関連施策や関係機関との連携を強化するとともに、区における自殺の状況等を分析し包括的な自殺対策（生きる支援）を行います。				
所管課 保健福祉部 健康推進課		決算参考書	174頁	H30予算の概要	82頁

51 成人健診・長寿健診・国保健診・特定保健指導

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	一人ひとりの健康づくりを支援します
------------------------	-------------------

事業概要	内容	40歳以上の千代田区国民健康保険加入者を対象として、メタボリックシンドロームの予防に主眼を置いた国保健診（特定健康診査）を実施しています。 さらに、40歳以上の区民には、平成19年度まで実施していた「誕生月健診」と同等のサービスを確保するため、区独自の追加検査項目を成人健診として実施しています。また、後期高齢者医療制度加入者を対象に長寿健診を実施しています。
	事業開始年度	平成20年度

事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率	
	(1) 成人健診	57,135,000円	48,426,480円	84.8%	
	(2) 長寿健診	21,582,000円	18,349,661円	85.0%	
	(3) 国保健診・特定保健指導（国民健康保険事業会計）	36,588,000円	24,218,063円	66.2%	
	コスト単位	(1) 受診者1人あたり		(7,387人)	
		(2) 受診者1人あたり		(2,127人)	
		(3) 健診受診者1人あたり		(2,426人)	
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
	(1)	6,556円 [93.0%]	493円 [7.0%]	7,049円	[100.0%]
	(2)	8,627円 [86.5%]	1,341円 [13.5%]	9,968円	[100.0%]
(3)	9,983円 [82.1%]	2,183円 [17.9%]	12,166円	[100.0%]	

事業実績	○平成30年度実績			
	(1) 健診種別ごとの受診（利用）者数及び受診（利用）率			
		対象者数	受診（利用）者数	受診（利用）率
	①成人健診	32,457人	7,387人	22.8%
	②長寿健診	5,545人	2,127人	38.4%
	③国保健診	6,996人	2,426人	34.7%
	④国保特定保健指導	246人	23人	9.3%
	※国保特定保健指導対象者は、国保健診を受診した年度区分で算出。また、利用者数は、5月末日までの累計。			
	(2) 国保健診受診者のメタボリックシンドローム基準該当者、予備群該当者			
	基準該当		予備群該当	
人数	該当率	人数	該当率	
356人	14.7%	229人	9.4%	

2年度事業実績を踏まえた課題及び現況への対応	各健診とも受診率が伸び悩んでおり、受診率の向上が課題です。 成人健診については、加入している保険者が実施する特定健診を受診することの重要性と区独自検査項目である成人健診との同時受診の周知を図ります。また、長寿健診については、引き続き高齢者の予防接種事業と連携し、受診勧奨を実施します。令和2年度は引き続き適切な受診勧奨を行うことで受診率の向上を図ります。 国保健診（特定保健指導を含む）については、第三期特定健康診査等実施計画及びデータヘルス計画に基づき、受診率向上のため、受診勧奨通知やチラシの送付による普及啓発に取り組んでいます。令和2年度は健診未受診者の分析に基づき、対象群に合わせた勧奨を拡充します。
------------------------	--

所管課 保健福祉部 健康推進課、保険年金課	決算参考書 176、294頁	H30予算の概要	82頁
-----------------------	----------------	----------	-----

52 がん検診・女性特有のがん対策【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	一人ひとりの健康づくりを支援します
------------------------	-------------------

事業概要	内容	<p>がんによる死亡者数を減少させるためには、科学的に死亡率減少効果の明らかかな方法によりがん検診を実施し、がん検診の受診率を向上させ、がんを早期に発見し、早期治療につなげることが重要です。</p> <p>区では、国の定めるがん検診実施のための指針に基づき、20歳以上の区民のうち偶数年齢の女性を対象に子宮がん検診、40歳以上の区民を対象に胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、乳がん検診（偶数年齢の女性のみ）を実施しています。</p> <p>平成28年2月に指針が改正され、胃がん検診の項目に内視鏡検査が加えられたことを受け、区は、国の指針に準拠した「千代田区胃内視鏡検査実施基準」を作成しました。平成30年度からは、この実施基準に基づき胃内視鏡検査を実施することで、より精度の高い検査を提供するとともに、千代田区がん予防推進委員会胃内視鏡検診運営部会を開催し、内視鏡検査の精度管理を行っていきます。</p>
	事業開始年度	昭和44年度 子宮がん検診 昭和58年度 肺がん検診 昭和56年度 乳がん検診 昭和60年度 胃がん検診、大腸がん検診

事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率
	(1) がん検診		129,900,000円	90,892,007円 70.0%
	(2) 女性特有のがん対策		49,353,000円	38,991,015円 79.0%
	コスト単位	(1) 受診者1人あたり		(14,836人)
		(2) 受診者1人あたり		(4,169人)
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)
	(1)	6,126円 [94.1%]	383円 [5.9%]	6,509円 [100.0%]
(2)	9,353円 [86.5%]	1,459円 [13.5%]	10,812円 [100.0%]	

事業実績	○平成30年度実績 受診期間 平成30年6月15日から平成31年2月28日まで					
	(1) がん検診		(2) 胃がん検診検査方法別内訳			
		対象者数	受診者数 (内クーポン券利用者数)	受診率	検査方法	受診者数
	胃がん検診	19,053人	4,370人	22.9%	バリウム検査	975人
	肺がん検診	21,260人	5,071人	23.9%	内視鏡検査	2,370人
	大腸がん検診	20,221人	5,395人 (682人)	26.7%	内視鏡検査 (二重読影)	1,025人
(3) 女性特有のがん対策				<参考>胃内視鏡検診運営部会 2回開催 (10月、2月)		
	対象者数	受診者数 (内クーポン券利用者数)	受診率			
乳がん検診	6,483人	1,786人 (561人)	27.5%			
子宮がん検診	9,428人	2,383人 (445人)	25.3%			

2年度事業実績及び現況を踏まえた令和2年度の対応	がん検診の受診率は近年減少傾向となっており受診率向上が課題です。 令和元年度は、これまで実施していた大腸・乳・子宮がん検診における一部対象者への無料クーポン事業の効果を踏まえ、全てのがん検診について自己負担額を無料化し、受診率の向上を図ります。 令和2年度も引き続き、検診の精度管理と受診しやすい環境の整備に取り組めます。
--------------------------	---

所管課 保健福祉部 健康推進課	決算参考書 176頁	H30予算の概要 83頁
-----------------	------------	--------------

53 子どもの予防接種

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標	感染症や食中毒等を予防し、発生時には迅速な対応をする体制を整備します
------------------------	------------------------------------

事業概要	内容	<p>予防接種法に基づく定期予防接種を公費負担で実施するほか、任意予防接種費用の助成を行い、対象者の経済的負担を軽減することで、接種率の向上を図り、感染症予防を促進します。</p> <p>平成28年度から、インフルエンザ予防接種費用助成について、15歳（中学生）以下に対する一部助成から18歳（高校3年生相当年齢）以下に対する全額助成に拡大しています。</p>
	事業開始年度	平成22年度（任意予防接種）

事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率
	287,173,000円		251,548,161円		87.6%
	コスト単位	接種者1人あたり (26,445人)			
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
	9,512円 [96.7%]	324円 [3.3%]	9,836円 [100.0%]		

事業実績	○平成30年度実績				
	<p>先天性風しん症候群対策をより促進するため、平成30年10月から対象者を30歳代から50歳代の男性等にも拡大し、風しん抗体検査及び予防接種費用を全額助成しました。</p> <p>対象者数は平成30年4月1日の人数で、接種者は平成30年度の実数</p>				
	ワクチン別 接種率 (接種者/ 対象者) ※小数点以下 切り捨て	定 期	ヒブ		小児用肺炎球菌
			1回: 95% (571/599) 2回: 96% (578/599)		1回: 95% (571/599) 2回: 96% (577/599)
			3回: 97% (586/599) 追加: 93% (638/685)		3回: 97% (587/599) 追加: 90% (622/685)
			三種混合		四種混合
			接種実績なし		1回: 95% (570/599) 2回: 97% (586/599)
			急性灰白髄炎 (ポリオ)		3回: 98% (593/599) 追加: 99% (681/685)
			麻しん風しん混合 (MR)		日本脳炎
			1回: 0% (0/599) 2回: 0% (2/599)		1回: 100% (630/627) 2回: 100% (627/627)
3回: 0% (0/599) 追加: 0% (6/685)			追加: 109% (629/572) 経過: — (176/—)		
BCG			二種混合		
97% (585/599)		II期: 128% (625/485)			
水痘		HPV			
1回: 89% (615/685) 2回: 95% (655/685)		1回: 8% (19/235) 2回: 5% (14/235)			
		3回: 4% (11/235)			
おたふくかぜ		B型肝炎			
101% (694/685)		1回: 94% (568/599) 2回: 96% (577/599)			
インフルエンザ		3回: 95% (575/599)			
1回: 5,422人 2回: 3,951人		麻しん風しん混合 (MR)			
		36人			
		大人の風しん			
		抗体検査 1,032人 予防接種 348人			

2課 事業 実績 及び 現況 への 対応	<p>制度変更等により定期予防接種の種類・回数が増え、接種スケジュールが煩雑になっており、接種漏れ（接種忘れ）や接種間隔の誤りが課題となっています。</p> <p>令和元年度は、引き続き制度変更や接種スケジュール等の情報を速やかにかつ分かり易く周知するとともに、平成27年10月に開始した予防接種と育児応援Webアプリ提供サービスのさらなる周知に取り組み、予防接種の適正な実施がなされるよう努めます。</p> <p>令和2年度もきめ細やかな接種勧奨を行い、接種率向上をめざします。</p>
--	--

所管課 保健福祉部 健康推進課	決算参考書	176頁	H30予算の概要	74頁
-----------------	-------	------	----------	-----

54 歯科口腔保健の推進

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		一人ひとりの健康づくりを支援します				
事業概要	内容	<p>区は、平成24年度に「千代田区歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定し、「歯と口腔の健康づくり」の普及啓発活動を行っています。</p> <p>(1) 歯科口腔保健の推進 普及・啓発のための講演会、啓発イベント、8020表彰事業等を実施しています。</p> <p>(2) 歯科保健の推進 主に乳幼児を対象に、ライフステージに応じた歯科健診、保健指導及び健康教育を実施しています。</p> <p>(3) 区民歯科健診 19歳以上の区民を対象に指定歯科医療機関において歯科健診を実施しています。歩行困難等により歯科医療機関での受診が困難な方には、歯科医師による訪問歯科健診を実施しています。</p>				
	事業開始年度	(1) 昭和56年度 (2) 昭和50年度 (3) 平成5年度				
事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率		
	(1) 歯科口腔保健の推進		1,347,000円	1,228,442円	91.2%	
	(2) 歯科保健の推進		7,690,000円	7,689,052円	100.0%	
	(3) 区民歯科健診		39,298,000円	37,810,251円	96.2%	
	コスト単位	(1) 区民1人あたり		(64,584人)		
		(2) 利用者1人あたり		(12,390人)		
		(3) 受診者1人あたり		(5,055人)		
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
	(1)	19円	[27.5%]	50円	[72.5%]	69円 [100.0%]
(2)	621円	[34.4%]	1,184円	[65.6%]	1,805円 [100.0%]	
(3)	7,480円	[90.0%]	833円	[10.0%]	8,313円 [100.0%]	
事業実績	○平成30年度実績					
	(1) 歯科口腔保健の推進					
	①講演会、歯と口の健康週間事業、成人の日のつどい歯科啓発事業 各1回 ②歯科保健推進委員会 開催回数 1回 ③8020表彰事業による表彰者 13名					
	(2) 歯科保健の推進					
	歯科健診	予防処置	保健指導	健康教育	相談	
	3,811人	2,652人	3,814人	2,016人	97人	
(3) 区民歯科健診 (受診期間 平成30年6月15日から平成31年2月28日まで)						
	対象者数	受診者数	受診率	前年度受診率		
	52,122人	5,055人	9.7%	6.0%		
2年度事業実績を踏まえた課題及び現況への対応	歯科口腔保健の推進は、歯と口の健康を通じた健康寿命の延伸が課題です。令和2年度も令和元年度に引き続き、区内歯科医師会等と連携して区民の歯と口腔の健康づくりに取り組みます。					
	歯科保健の推進は、乳幼児人口の増加への対応が課題です。令和2年度も令和元年度に引き続き、参加しやすい体制づくりを検討します。					
	区民歯科健診は、令和元年度は、受診券の様式変更及び受診開始日を早めることで、身体との差別化を図り、歯科健診により関心を持ちやすい環境を整備します。令和2年度はさらなる受診率向上をめざし、対象者全員への発送を継続します。					
所管課 保健福祉部 地域保健課、健康推進課		決算参考書	178頁	H30予算の概要	79頁	

55 食品衛生（普及啓発及び自主管理支援）【拡充】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		感染症や食中毒等を予防し、発生時には迅速な対応をする体制を整備します			
事業概要	内容	<p>区は、食品衛生についての知識の普及啓発活動を行い、食中毒の予防に努めています。</p> <p>(1) 食品衛生カレンダー 食品衛生の知識を普及するとともに食中毒の予防を図るため、時季に合わせた食品衛生に関する情報を掲載したオリジナルカレンダー（事業者向け・家庭向け）を作成し配布します。平成30年度は、家庭用カレンダーの印刷部数を増やし、広く配布することにより、事業者と家庭の両方に食品衛生の知識を普及させ、食中毒の予防を図ります。</p> <p>(2) 食の安全自主点検店公表制度 食品事業者の自主的な衛生管理を支援するため、食の安全対策を積極的に行っている店を認定し公表します。</p>			
	事業開始年度	平成28年度			
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率
	6,309,000円		5,400,220円		85.6%
	コスト単位	区民1人あたり		(64,584人)	
	コスト内訳	事業費等 (A)		人件費 (按分) (B)	
84円		[27.0%]	227円	[73.0%]	311円 [100.0%]
事業実績	<p>○平成30年度実績</p> <p>(1) 食品衛生カレンダー</p> <p>①事業者向けカレンダー：1,600部作成し、食品衛生協会、衛生講習会、保健所窓口等で配布</p> <p>②家庭用カレンダー：6,500部作成し、保育園・学校・出張所窓口等で配布</p> <p>(2) 食の安全自主点検店公表制度 食の安全自主点検店認定件数 76件（平成31年3月時点）</p>				
現況と令和2年度予算への対応	<p>感染症や食中毒等を予防するため、家庭や事業者に対して引き続き食品衛生や食中毒予防に関する普及啓発を推進していく必要があります。また、食品衛生法の改正により令和3年度から、全ての飲食店等においてHACCP※の考え方に基づく衛生管理計画の作成・記録等を行うこととなるため、類似する点の多い「食の安全自主点検店公表制度」について、内容の見直しが必要です。</p> <p>令和元年度は「食の安全自主点検店公表制度」について、内容を見直します。また、食品衛生カレンダーについては、引き続き家庭用カレンダーを作成し、さらなる普及啓発を図ります。また、事業者向けカレンダーは食品衛生法改正に合わせた点検項目に加え、公表制度による項目も記録できるよう改訂し、認定件数の増加を促します。</p> <p>令和2年度も、引き続きオリジナルカレンダーの作成・配布により家庭・事業者への普及啓発を図るとともに、法改正に合わせて「食の安全自主点検店公表制度」の見直しを進め、より参加しやすい制度へ改めていきます。</p> <p>※HACCP…事業者が食中毒菌汚染等の危害要因を把握した上で、原材料入荷から製品出荷までの全工程の中で、危害要因を除去低減させるために、特に重要な工程を管理し安全性を確保する衛生管理手法。先進国を中心に義務化が進められています。</p>				
所管課	保健福祉部	生活衛生課	決算参考書	180頁	H30予算の概要 77頁

56 淡路町施設浴場等改修

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		一人ひとりの健康づくりを支援します												
事業概要	内容	平成16年にオープンした淡路町施設の浴場等施設は、ボイラーやポンプなどの大型機器類の老朽化が進んでおり、平成30年度には、運営事業者との賃貸借期間が満了となります。このような状況を踏まえ、平成29年度は、普通公衆浴場の継続を必須要件とした上で、本施設を運営する事業者を公募により募集・決定しました。 平成30年度は、ボイラー等の施設の老朽化に伴う工事及び運営事業者の提案による施設改修工事のうち区が必要と認める工事を運営事業者が行うにあたり、その費用を負担します。												
	事業開始年度	平成29年度												
事業費・コスト	予算現額		決算額		執行率									
	289,845,000円		289,688,336円		99.9%									
	コスト単位	改修1施設あたり			(1施設)									
	コスト内訳	事業費等(A)		人件費(按分)(B)	総コスト(C=A+B)									
289,688,336円		[98.3%]	4,888,652円	[1.7%]	294,576,988円 [100.0%]									
事業実績	○平成30年度実績 (1) 工事費の負担 運営事業者が行ったボイラーやポンプ等の施設の老朽化に伴う工事及び区が必要と認める工事について、区が負担する工事の内容を確認し、その費用を負担しました。 ①老朽化改修工事に伴う負担額 232,492,709円 ②運営事業者提案工事に伴う負担額 57,195,627円 (2) 施設リニューアルオープンの周知 施設の概要及び施設のリニューアルオープンについて、区ホームページ及び区広報等で広く周知しました。 ①リニューアルオープン 平成31年3月1日(当初予定より4か月前倒し) ②公衆浴場の名称 RAKU SPA 1010 (らくすぱせんとう) ③施設の各階用途													
	<table border="1"> <tr> <td>4階</td> <td>ラウンジ、くつろぎエリア</td> </tr> <tr> <td>3階</td> <td>公衆浴場、更衣室</td> </tr> <tr> <td>2階</td> <td>食事エリア、イベントルーム</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>施設入口、受付、ランナー用更衣室</td> </tr> <tr> <td>B1階</td> <td>女性専用レストルーム、機械室</td> </tr> </table>					4階	ラウンジ、くつろぎエリア	3階	公衆浴場、更衣室	2階	食事エリア、イベントルーム	1階	施設入口、受付、ランナー用更衣室	B1階
4階	ラウンジ、くつろぎエリア													
3階	公衆浴場、更衣室													
2階	食事エリア、イベントルーム													
1階	施設入口、受付、ランナー用更衣室													
B1階	女性専用レストルーム、機械室													
2年度事業実績及び予算への対応	<p>本事業は、設備等の改修を実施し新たな事業者のもとで淡路町施設の運営が開始されたことにより平成30年度で完了しました。</p> <p>今後は、事業者の募集時に区が示した公募要項や区と運営事業者が締結した施設の管理運営に関する協定書に基づき、運営事業者による適切な事業運営が行われているかを確認・評価する必要があります。</p> <p>このため、令和元年度に(仮称)淡路町施設評価委員会を立ち上げ、本委員会において、淡路町の事業運営を確認・評価することとします。</p> <p>令和2年度も引き続き(仮称)淡路町施設評価委員会を開催し、本施設の適切な事業運営が図られるよう努めていきます。</p>													
所管課 保健福祉部 地域保健課		決算参考書	182頁	H30予算の概要	81頁									

57 民泊対策【新規】

ちよだみらいプロジェクトの 施策の目標		感染症や食中毒等を予防し、発生時には迅速な対応をする体制を整備します			
事業概要	内容	<p>千代田区における民泊宿泊者の安全・安心を確保するとともに、周辺住民の安全で快適な生活環境を維持するため、区の実情に応じた運営がされるよう、独自のルールを定める「千代田区住宅宿泊事業の実施に関する条例」を平成30年3月に制定しました。</p> <p>(1) 住宅宿泊事業 届出に必要な添付書類を受け付け、現地を職員が確認します。事業開始後は定期的な報告を受け、ルールが守られているか現地調査により確認します。また講習会を開催し、健全で良質な民泊を育成します。</p> <p>(2) 違法民泊指導 実態調査や周辺住民等からの苦情・相談により発見された無許可の民泊営業施設に対して、関係機関とも連携しながら、厳しく取り締まっています。</p>			
	事業開始年度	平成30年度			
事業費・コスト	予算現額		決算額	執行率	
	(1) 住宅宿泊事業		1,830,000円	1,705,704円	93.2%
	(2) 違法民泊指導		3,831,000円	3,763,630円	98.2%
	コスト単位	(1) 区民1人あたり		(64,584人)	
		(2) 区民1人あたり		(64,584人)	
	コスト内訳	事業費等 (A)	人件費 (按分) (B)	総コスト (C=A+B)	
	(1)	26円 [6.4%]	378円 [93.6%]	404円	[100.0%]
(2)	58円 [18.7%]	252円 [81.3%]	310円	[100.0%]	
事業実績	○平成30年度実績				
	(1) 届出苦情相談等件数		単位：件		
		平成30年度	平成29年度	平成28年度	届出18件中1件廃業
	民泊届出	18(17)			
	民泊相談	177	162	345	
違法民泊苦情情報	152	33	50		
違法民泊調査	152	20	53		
(2) 民泊連絡協議会を設置し、関係機関である区内各警察署及び消防署と情報共有を行い、連携を図り、また民泊対策庁内等連絡会を設置し、全庁体制で違法民泊対策を行いました。					
2年度事業実績を踏まえた 課題及び現況への対応	届出された営業施設に対し、千代田区の独自ルールを含めた法令遵守を徹底していくことが必要です。また、違法民泊の取り締まりには、営業者を特定して、営業実態を把握していくことが必要です。				
	令和2年度は、令和元年度に引き続き、届出された営業施設に対し、現地調査を行い、講習会などにより健全で良質な民泊を育成して、維持していきます。また、連絡協議会において警察や消防等の関連機関と情報共有し連携を図ります。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催による違法民泊施設の増加を防止するため、インターネットやSNSサイトの掲載情報、実態調査や周辺住民等からの情報により把握した無許可の民泊営業施設に対し、宿泊客や管理会社からの聴取を行い、営業者の特定、営業実態の把握に努めます。				
所管課 保健福祉部 民泊指導課		決算参考書	182頁	H30予算の概要	75頁